

身近な自然とのかかわりを生み出す

3年

## 『くらしと絵文字を学んでメッセージボードを取り付けよう』の実践

札幌市立三角山小学校 佐藤 広也

### ◆単元のポイント

三角山は311メートルの中央区と西区にまたがる山。札幌市民の憩いの場所。いくつもの登山ルートがあり、幼稚園児からでも登れます。国語科での説明文「くらしと絵文字」から発展させて三角山へメッセージボードを取り付ける活動です。別に山でなくともよいのです。身近な場所(校内を含めて)に交通安全情報や危険地帯情報などを取り付けながら双方向のコミュニケーション能力を発展させていきましょう。国語と環境学習を中核に学習活動が展開できます。

#### ○「くらしと絵文字」を学びながらくらしを見つめる

国語でのこの単元は、国語や社会、図工、理科などと結びつけて活動を構成できる可能性のある単元です。「くらし」をしっかりと見つめることが大事。自然を中心にして考えれば、身近な自然(草花、樹木、動物、虫、鳥)、や、ゴミ、安全などの学校周辺地域でのくらしを見つめ直すきっかけになります。

#### ○相手意識を育てていく

メッセージボードには子供たちがこれまでに探偵してきた地域情報を書き込み、絵文字(具体的な絵でもよい)を添えたものをラミネートし樹木や塀などの許可を得て取り付けていきます。メッセージはともすれば「○×きんし」という禁止だらけの一方的なものだけになりがちですが、くらしを見つめながら必要なものは何か、どうしても伝えたいことは何かを考えてボードに反映させます。校内を徹底的に探偵して生活情報を貼るなどもよいです。

#### ○双方向での思いのやりとりができるように

どうしても相手を考えても、一方的なものになりがちです。掲示板を設置したり、ボードの取り替えをこまめに行ったりすることがあると継続的で様々な人とのやりとりができます。

### ◆単元の目標

- 「くらしと絵文字」で学んだことを生かして身近な情報をメッセージボードに書き表そうとする。(関心・意欲・態度)
- 読み手のことを考えて必要な情報を伝えることができる。(思考・表現)
- 常に双方向のやりとりを意識した活動をしようとする。(気付き)

## ◆単元の構成（6時間扱い）

### 『くらしと絵文字』を学んでメッセージボードを取り付けよう

#### メッセージボードを作ろう

校内外のくらしを探偵しながら、みんなに見てほしい知ってほしい情報は何か、考えてみよう（2）

校内外にメッセージボードをつけて感想を聞こう（2）

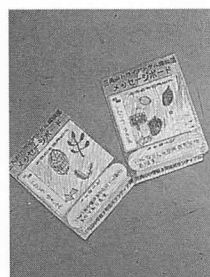
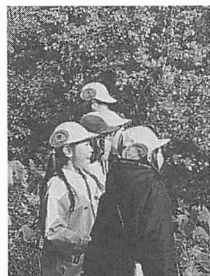
三角山にどんなメッセージがあったらいいか、実際に登って考えよう（2）

メッセージボードを完成させよう（1）

メッセージボードを三角山に取り付けに行こう。（2）

#### <留意点>

- ・メッセージボードを作ろう。
- ・校内、校地内であったほうがいい情報は何かくらしを点検して考えよう。
- ・メッセージボードをつけて、感想を聞こう。
- ・登山をして発見したことをメモする。
- ・用紙に記入。色もつけ、ラミネートし、ひもをつける。
- ・どんな場所がいいかよく考えて貼ろう。
- ・貼った場所を地図に入れよう。



## ◆実践するにあたって

この実践の始まりは、「くらしと絵文字」の国語の単元でした。図工の時間を利用して「絵文字」作りをしてもよいでしょう。ただ3年生ですから、絵文字よりも確かな情報、伝えたい情報を表せるかを大切にすることと受け手を意識することが大切でしょう。掲示板やノートなどで登山者との交流もしていただけます。